

令和 7（2025）年度 卒業生アンケート調査報告書

1. 目的

卒業生にアンケート調査を行い、本学の教育改善を図るための参考資料として活用する。

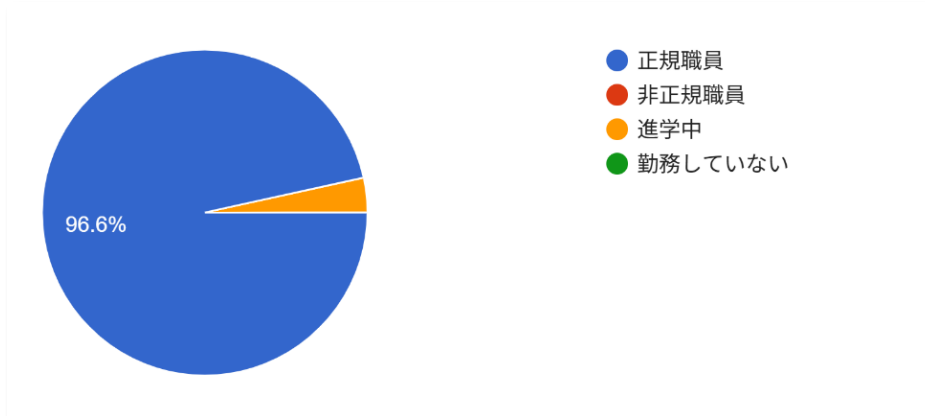
2. 方法

- 1) 調査期間：令和 7（2025）年 8 月 6 日（水）～8 月 22 日（金）
- 2) 調査対象：令和 5 年度卒業生 81 人
- 3) 回答方法：学籍時アドレス及び文書で依頼をし、Google フォームによる無記名回答
- 4) 設問内容：別紙 2 参照
- 5) 集 計 数：依頼 81 人中 29 人回答 回答率 36%

3. 集計結果

1) 設問 1 基本情報について

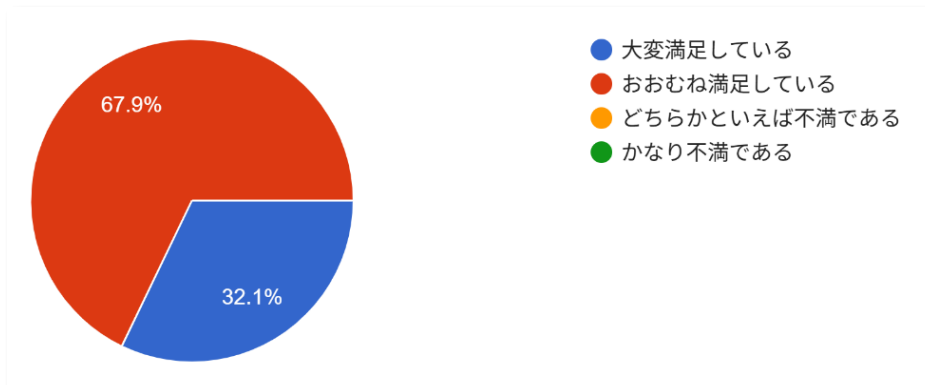
現在の就業状況について伺います。



回答者のほとんどが正規職員として現在も活躍しており、1 年勤務した後に進学した卒業生もいることが確認できる。

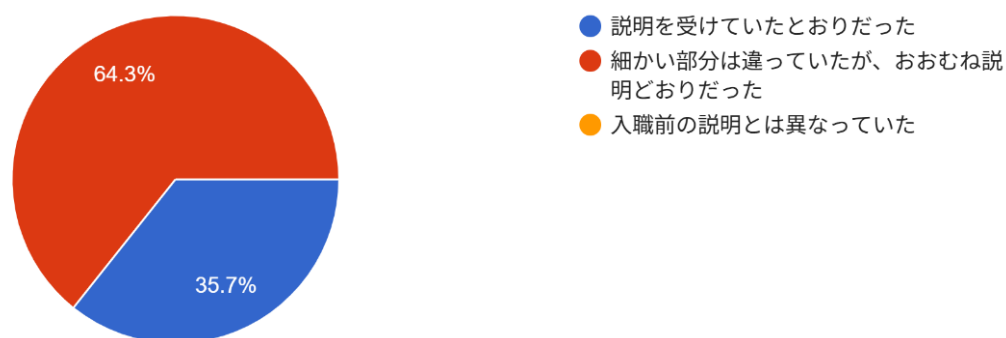
2) 設問 2 あなたが勤務されている職場状況について伺います。

項目①あなたは職場で受けた（現在も受けている）新人研修プログラムに満足していますか。



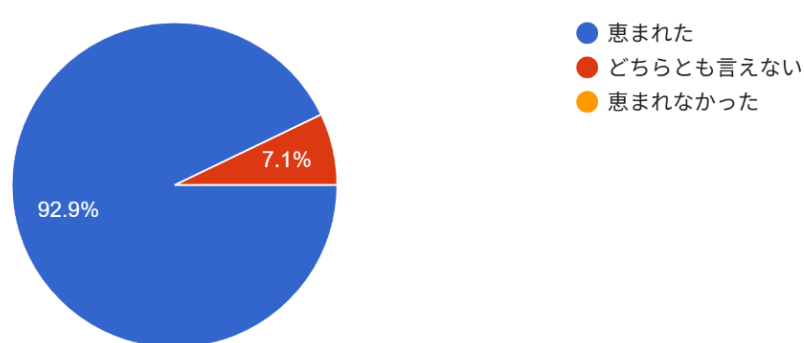
回答者全員が、職場での新人研修プログラムに満足したと回答しており、充実した 1 年目を過ごしたことが窺える。

項目②就活時に説明を受けていた新人研修プログラムと、入職してから実際に受けた新人研修プログラムを比べてみてどうでしたか。



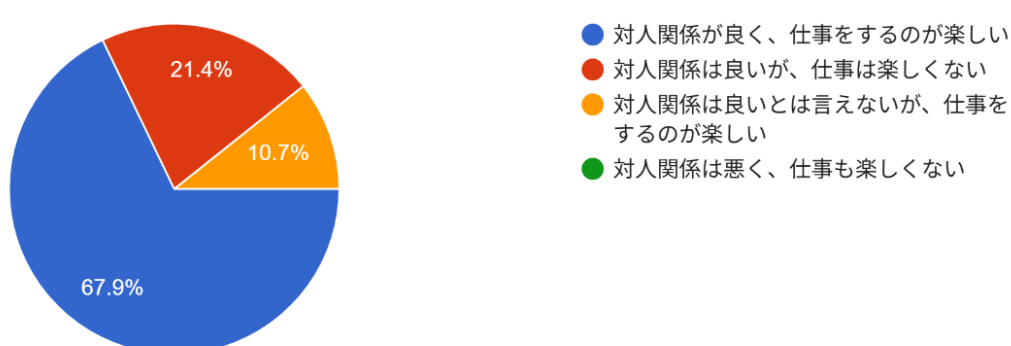
事前に調べていた情報や説明と差異がないという回答から、就活時によく調査し、希望する職場に就職できていることが窺える。

項目③教育・相談・支援を担当してくれる先輩看護職員に恵まれたとお考えですか。



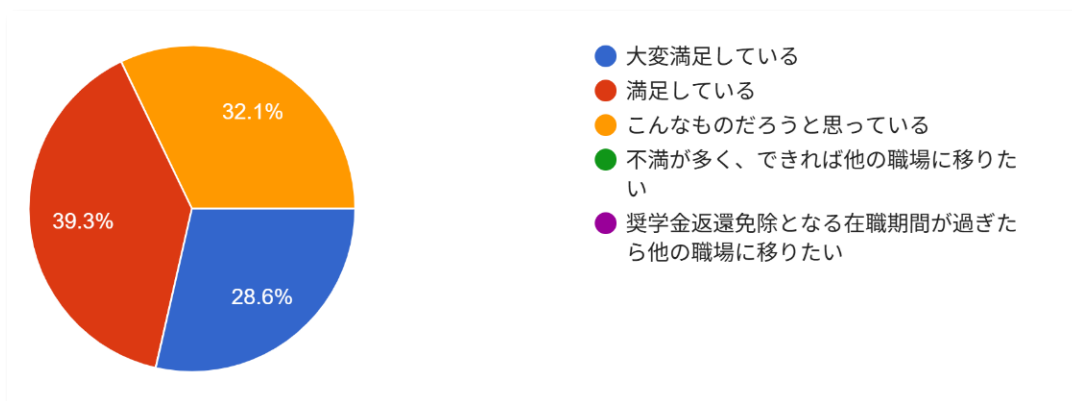
ほぼすべての回答者が、サポートしてくれる先輩に恵まれたと回答しており、恵まれた環境で勤務していることが窺える。

項目④あなたが勤務している職場（病棟等）の対人関係や雰囲気等について伺います。



対人関係も実務も充実している回答者が多い一方、現在の配属先や業務等に満足していない回答者も少なからずいることが分かる。

項目⑤現在の職場についての感想をお伺いします。



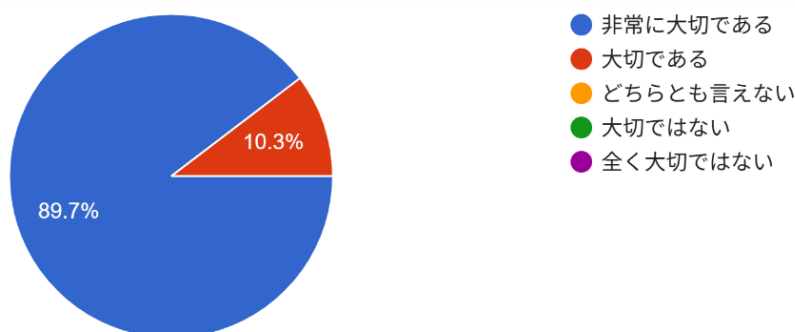
ほとんどの回答者が現在の職場に満足している、あるいは不満はない状況で勤務していることが分かった。

項目⑥職場を決めるに際し、先輩として在学生に伝えたいことがありましたらご記入ください。

- ・給料、離職率とかは見えていたほうがいいです。
- ・地元に貢献したい等の譲れない条件を1つだけ決めること
- ・沢山の説明会に参加して、病院見学に行った方がよい。病院だけじゃなくて、住む環境も含めて事前に知ることができるから。
- ・もし働きたいと思っている職場があれば、実際に自分で足を運んで雰囲気を確かめる。ひとつだけでなく、たくさんの職場を自分の目で見て決めた方がよいと思う。
- ・正直に申し上げますとやりがいだけでは続かないと思います。ある程度の給与が確立されているところで「お金がいいから頑張る」みたいなモチベーションでいられるような職場を選んだ方がいいですね。あとは人間関係本当に大事です。職場の人間性は職場を決める段階ではまだわかりませんがネットの口コミや先輩方の声を参考にして決めておくべきだと思います。
- ・自分が行きたい病院に行くこと。妥協しないで挑戦すること。
- ・就職してそこで上手くやっていけるかは自分次第だと思っている部分もあったが、やはり周りの環境は大事だと感じた。1人で完結する仕事ではないし、なにより一年目は特に教わる先輩によって自分の仕事の基盤も変わってくると感じている。住む場所も近くにスーパーがあるか、など利便性も見れると、なお良いのではないかと思います。
- ・家庭環境の事情が就活に影響する場合、友達や先生に相談しにくい場合、学生サポート、カウンセラーを利用してほしい。1人で悩まないで欲しい。
- ・職場の雰囲気を肌で感じて決めた方がいいです。

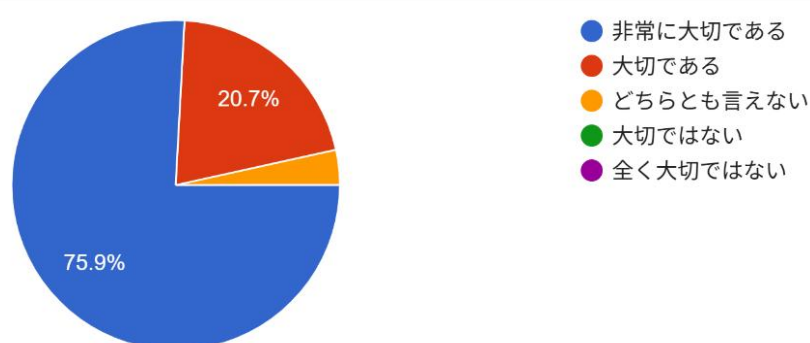
3) 設問3 本学 DP は、現在の仕事や自分自身にどの程度大切であると感じていますか。

項目①人間力：周囲の人々とコミュニケーションを通して理解し合い、共感し合い、協働することができる。



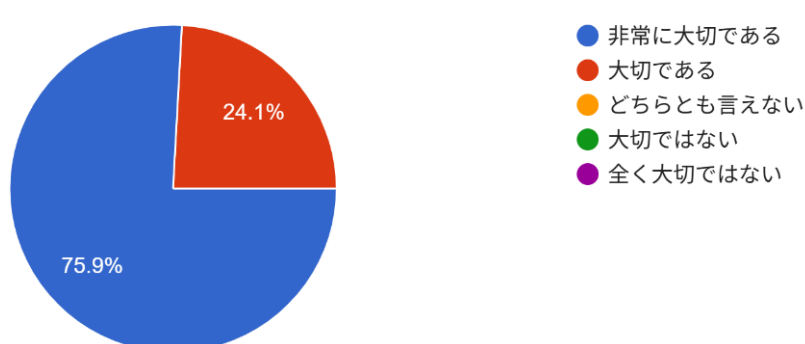
項目①「人間力」では、全ての回答者が「大切である」と回答しており、臨床での重要性を感じ取っていることが分かる。

項目②ケア・スピリット：相手の人生にとっての最善を目指して、自ら進んでケアに向かう姿勢を発揮できる。



項目②「ケア・スピリット」では、ほぼ全ての回答者が「大切である」と回答しており、本学の建学の精神が根づき、実際の業務でも重要であると感じていることが分かる。

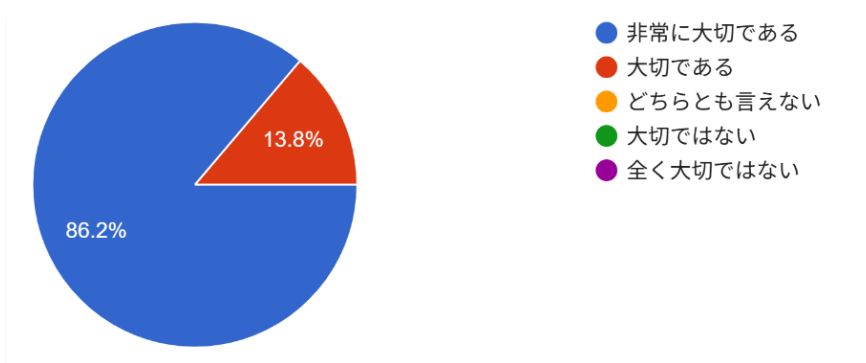
項目③人間の実践的理解：ケアの相手の意向・気持ち・状況把握を共感的に理解しようと努めることができる。



項目③「人間の実践的理解」では、全ての回答者が「大切である」と回答しており、相手に寄り添った看護を心がけ、実践していることが分かる。

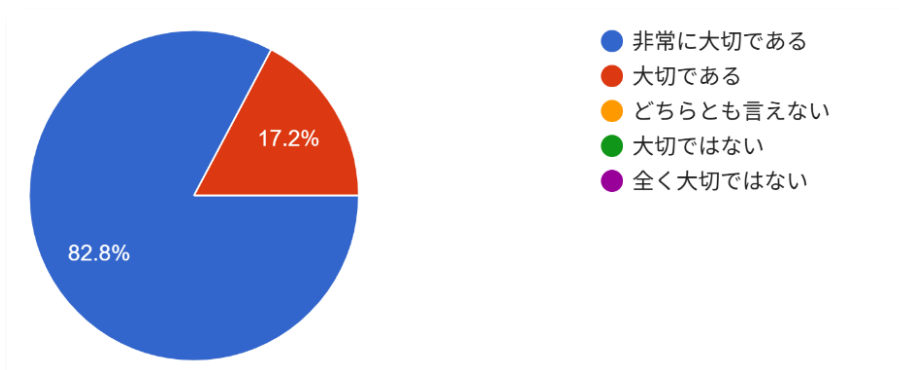
項目④専門的知識・技術とその臨床実践：

看護ケアに必要なコアとなる専門的知識・技術を備え、臨床の場での、具体的な対応に活かすことができる。



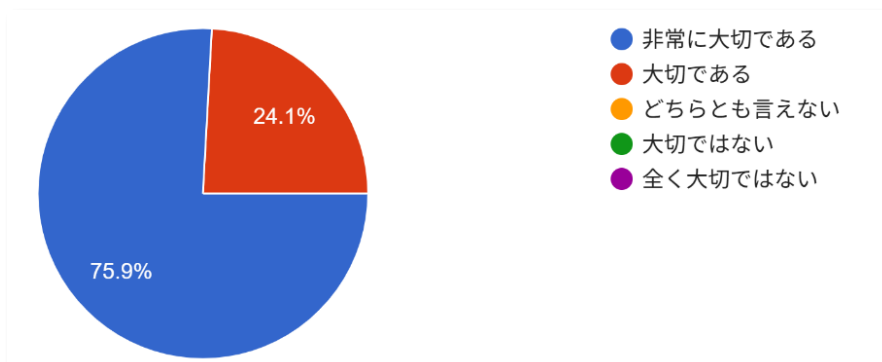
項目④「専門的知識・技術とその臨床実践」では、全ての回答者が「大切である」と回答しており、臨床での重要性を認識していることが分かる。

項目⑤多職種連携・チームワーク：チームメンバーや多職種のケア従事者たちと連携・協働することができる。



項目⑤「多職種連携・チームワーク」では、全ての回答者が「大切である」と回答しており、多職種連携の重要性を認識していることが分かる。

項目⑥アドボカシー：ケアの相手の側に立って、そのよい人生のために支援し、必要に応じて代弁ができる。



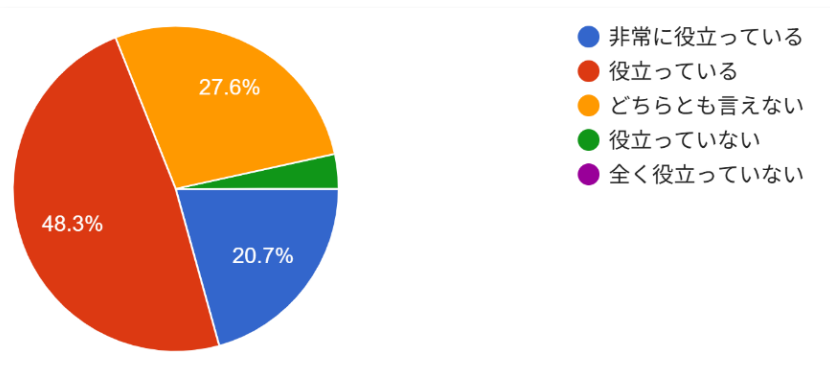
項目⑥「アドボカシー」では、全ての回答者が「大切である」と回答しており、相手の気持ちや主張等を必要に応じて代弁する重要性を認識していることが分かる。

項目⑦本学在学中に学びたかった分野などがありましたらご記入ください。

- ・身につけることができました。
- ・「報・連・相」の重要性や記録の仕方。
- ・中国語。

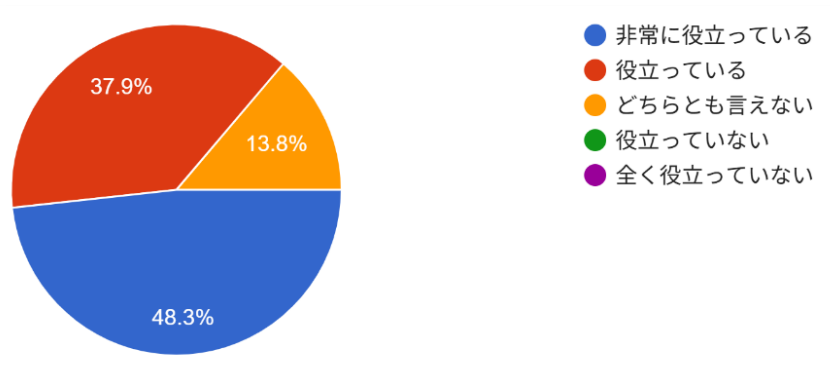
4) 設問 4 大学時代の教育は、現在の仕事や自分自身にどの程度役に立っていると感じていますか。

項目①基礎分野（一般教養科目、情報処理科目、言語科目等）



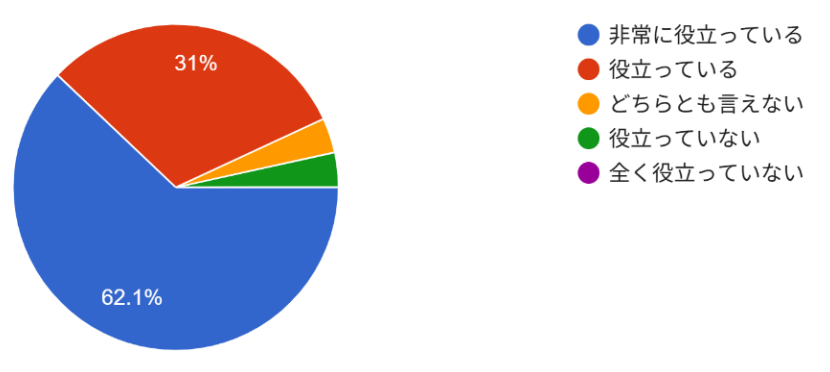
7割近くの回答者が「役立っている」と回答している。

項目②専門基礎分野（人体の構造や機能・病態疾病論・保健統計学等）



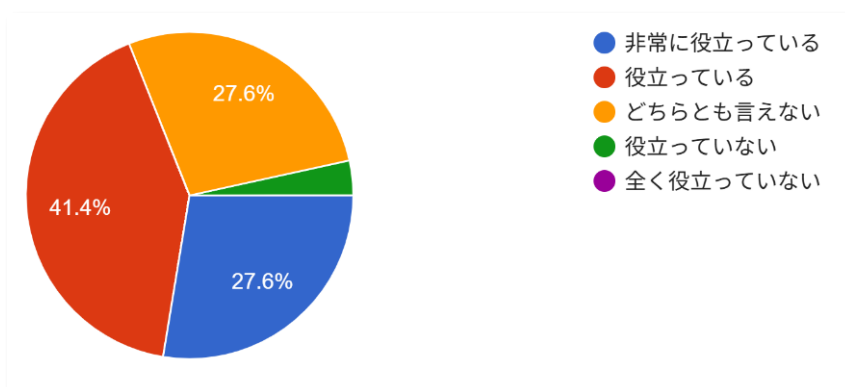
8割以上の回答者が「役立っている」と回答している。

項目③専門分野（看護に関する科目全般）



9割以上の回答者が「役立っている」と回答している。

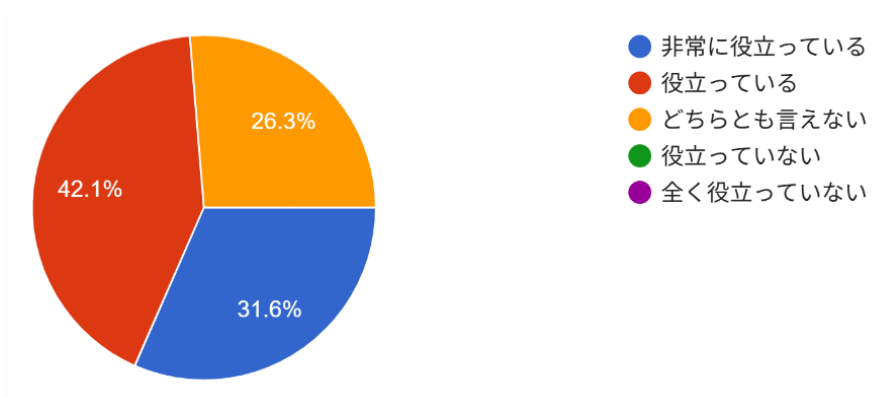
項目④統合分野（卒業研究・総合看護学実習等）



7割近くが「役立っている」と回答している一方、3割近くが「どちらとも言えない」と回答している。

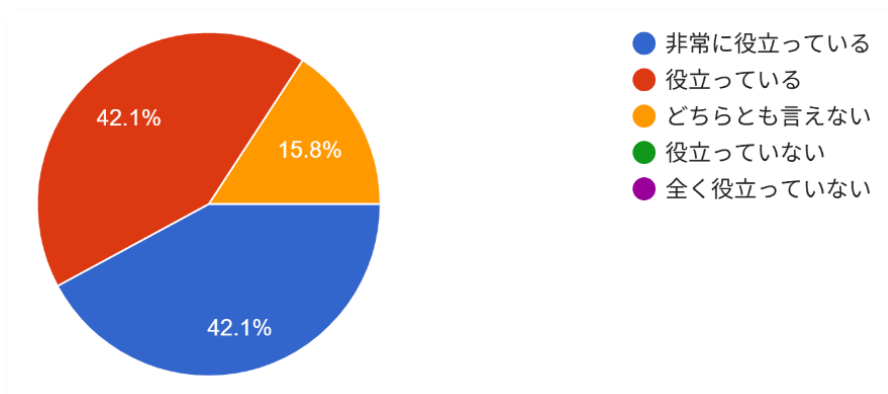
5) 設問5 大学時代の保健師教育は、自分自身にどの程度役に立っていると感じていますか。
※保健師として勤務されている方のみご回答願います

項目①地域の健康問題の明確化と解決・改善策の計画・立案



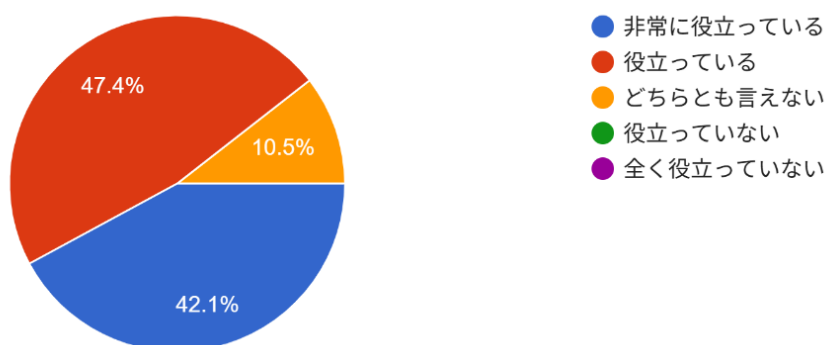
7割近くが「役立っている」と回答している一方、3割近くが「どちらとも言えない」と回答している。

項目②地域の健康増進能力を高めるための個人・家族・集団・組織に対する継続的支援



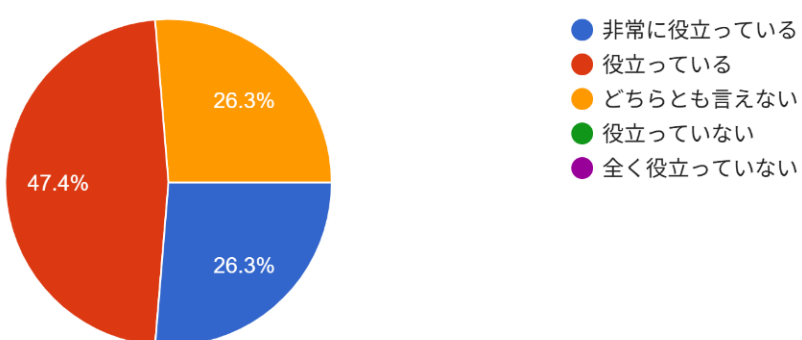
8割以上の回答者が「役立っている」と回答している。

項目③地域の人々・関係者・関係機関との協働



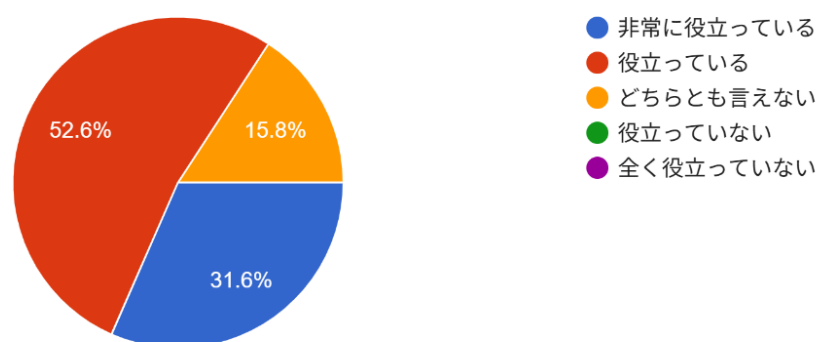
9割近くの回答者が「役に立っている」と回答している。

項目④地域の人々の健康を保証するための平時・発生時・回復時における健康危機管理



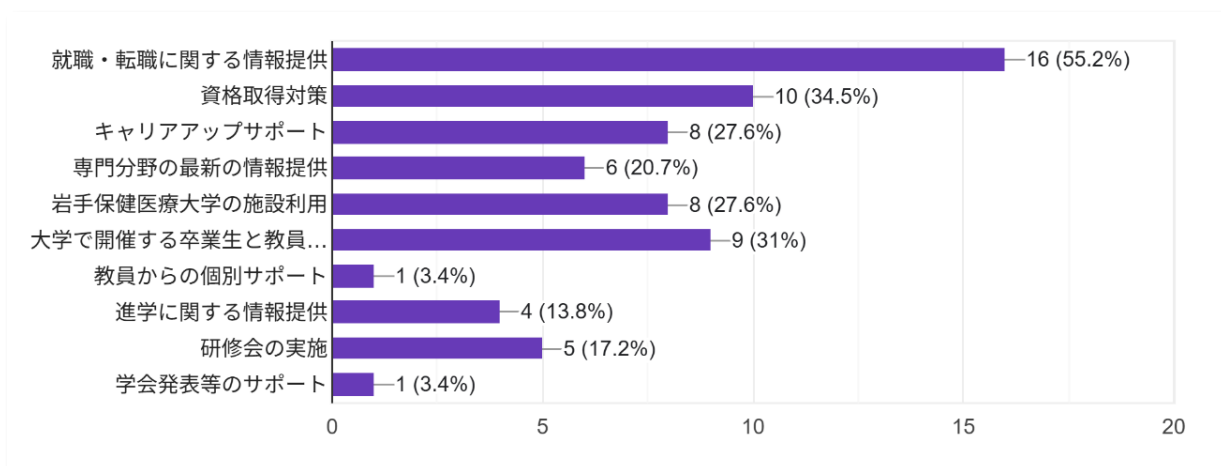
7割以上の回答者が「役に立っている」と回答している。

項目⑤地域の健康水準を高めるための事業化・施策化・社会資源の開発・システム化



8割以上の回答者が「役に立っている」と回答している。

6) 設問 6 卒業生に対する支援として、本学に期待することは何ですか。



7) 設問 7 教育や進路、就職支援を含め岩手保健医療大学への要望がありましたら自由にご記入願います。

- ・在学中は、単科大学ならではの少人数の強みを活かして先生方に質問しやすい雰囲気があったり、学務課に相談しやすい雰囲気があったのでそこが良かったと思っています。
- ・卒業支援としては、キャリアアップとして研修会や公開講座があれば良いと考えています。応援してます！
- ・仕事をしていて壁にぶつかった時に、ふと思い出し、もう少し頑張ろうと思えるのは、大学での先生からかけていただいた言葉であったり、実習・演習中の些細な一瞬です。演習や実習の準備とまとめの会で手厚くご指導いただいたことは、在学中だけでなく卒業後も影響を受けています。また、卒業後でも、卒論で担当していただいた先生にメールで報告し、支えていただいていることも感謝しています。ありがとうございます。
- ・学生相談を利用することで、悩みや不安を解決する方向へ向けることが出来ました。最初は利用するか迷いましたが、思い切って予約して話を聞いて貰えたことで1歩踏み出すことが出来ました。家庭環境が就活に影響する場合は少なくはないと思います、信頼できそうな大学教員もいましたが、学業以外の相談をするために時間を確保していただくには壁を感じました。教員の方でも学生の勉強以外の悩みを聞いてくださる方がいると助かると思います。学生と教員で相談しやすく、信頼できる関係性を築けるように意識して頂けるといいと思います。